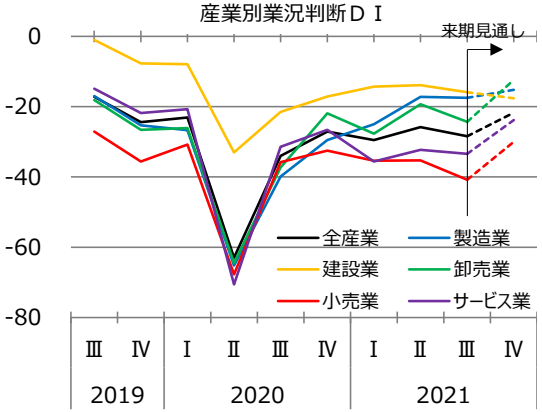
２０２１年９月３０日

Be a Great Small.
中小機構

第１６５回中小企業景況調査（２０２１年7－9月期）のポイント

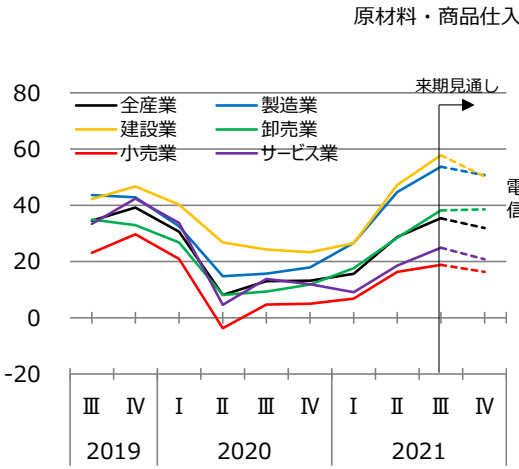
中小企業の業況は、足踏みのなかにも、一部業種に持ち直しの動き

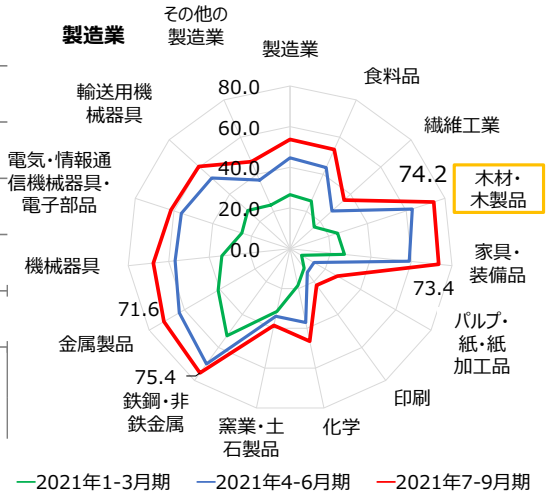


※上記ＤＩ：前期（2021年4-6月期）と比べて、【好転】、【不変】、【悪化】の3択で質問し、【好転】割合から【悪化】割合を差し引きし、季節調整を行った値。

中小企業の業況判断DIは、全産業でマイナス28.4（前期より2.6ポイント減）と２期ぶりに低下した。
産業別に見ても、すべての産業で低下した一方で、製造業、サービス業などで一部の業種が上昇した。
2021年10-12月期は、建設業で低下、建設業以外の産業で上昇する見通しとなった。
【報告書P.12　1.業況判断ＤＩより】

産業を問わず広がる仕入単価上昇の動き





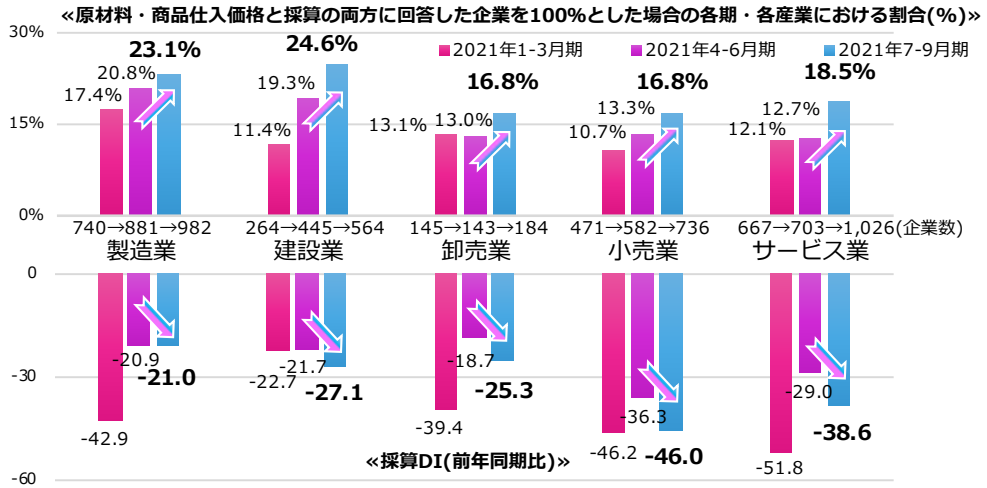
※上記ＤＩ：前年同期（2020年7-9月期）と比べて、【上昇】、【不変】、【低下】の3択で質問し、【上昇】割合から【低下】割合を差し引きした値。

中小企業の仕入単価の動向を示す原材料・商品仕入単価ＤＩは、全産業で35.4（前期差6.7ポイント増）と、2020年7-9月期以降、5期連続して上昇した。また、産業別に見ると、すべての産業で上昇し、特に製造業14業種のうち、木材・木製品で74.2（前期差11.1ポイント増）と1980年の調査開始以来、最も高い値となった。
【報告書P.13　3.原材料・商品仕入単価ＤＩより】

原材料価格が上昇する中での利益確保が課題

「原材料・商品仕入単価」と「採算」の両方に回答した17,550企業において、「原材料・商品仕入単価」が上昇し、「採算」も悪化したと答えた企業は、前期の2,754企業から3,492企業となり、すべての産業で前期より増加した。また、上昇を続けていた「採算DI」も今期低下し、原材料価格の上昇が採算を悪化させている。

「原材料・商品仕入単価(前年同期比)」が上昇し
「採算(前年同期比)」も悪化した企業の推移



また、「採算」が好転、不変と答えた企業からは、利益確保に向けた取り組みが見られた。(自由回答より)

【製造業】
◆コロナによる紙印刷需要の低迷で売上高はさほど回復していないが、新規事業の電子書籍やＷＥＢイベントがむしろ好調。紙印刷は材料費・外注費比率が高いため、これがなくなったことで利益率は向上した。（オフセット印刷業）

【建設業】
◆東京五輪関連の祝日とお盆休みが重なり実働日が減少。将来的な発注は不明で仕事に波がある。材料仕入単価が全般的に上昇したままの状態だが、他の経費見直し等で採算を維持。従業員退職の補充をしたいが様子見中。（土木工事業）
◆コロナ禍による打ち合わせや会議の中止、工期の延期が起きていることを踏まえると受注の減少が起きているのは納得の結果と言えるのかもしれません。売上より利益率の高い工事を受注した結果が内容に繋がっていると思う。（塗装工事業）

【小売業】
◆新型コロナウイルス感染症拡大により、エステ部門が低調である。収束が見られたら広告宣伝を実施する計画であるが、そのタイミングにならない状況が続いている。採算の好転は、利幅の大きい商品に切替えた結果である。（化粧品小売業）

【サービス業】
◆建設予算が例年並みである事から工事件数は例年と変りない。また、クラウド商材が増えた事による登録料が増加したが単価が下った商品自体での利益確保が難しく、サービスの併用により利益を維持している。（パッケージソフトウェア業）

【調査要領】
1.調査時点　2021年９月1日時点
2.調査対象　中小企業基本法に定義する全国の中小企業（調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,178、有効回答率96.1%）
3.自由回答数　4,229件（上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」p.80-81に掲載）
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)
　項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、回答者自身の言葉には、各企業が抱える課題が表れている。

お問い合わせ先：中小機構　総合情報戦略課　担当　伊原、谷井、大竹　　TEL　03-5470-1521　　URL　https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html